

平成28年度第2回北方領土遺産調査検討懇談会 議事録（概要版）

1 日時 平成29年3月12日（日） 10時30分～11時30分

2 場所 道立北方四島交流センター 1階 視聴覚室

3 出席者

(1) 委員

脇 紀美夫（（公社）千島齒舞諸島居住者連盟 理事長）
久保 浩昭（旧通信省千島回線陸揚げ庫保存会）
本間 浩昭（特定非営利活動法人北の海の動物センター）
猪熊 樹人（根室市教育委員会根室市歴史と自然の資料館 学芸主査）
石渡 一人（別海町教育委員会別海町郷土資料館 主幹）
村田 一貴（中標津町教育委員会生涯学習課 学芸員）
小野 哲也（標津町教育委員会管理課文化財保護担当係 学芸員）
天方 博章（羅臼町教育委員会羅臼町郷土資料館 学芸員）
右代 啓視（北海道博物館総務部 学芸主幹）

(2) 事務局

北海道根室振興局	副局長	谷内 紀夫
地域創生部北方領土対策課	主幹	讃岐 雅嗣
	係長	内城 孝司
	主事	玉理 和也

4 実施内容

(1) 平成28年度事業報告

事務局から平成28年度の調査状況、事業実施状況について説明。

【右代氏】

・例えば経文^{きょうもん}に学籍簿が記載されているものが、振興局に寄贈されたと報告を受けたが、こういう活動をしていると今後も現物が寄贈されると思う。昨年もお話したが、寄贈されたものを今後どういう風に活用していくのか。

【事務局】

・現在活用している例としては、「忘れてはいけない、モノがたり展」で寄贈を受けた一部の物について、根室市が納沙布岬に作った根室市北方領土資料館に常設展示していただいている。今回の経文についても、同様に展示してもらえないか、根室市に相談しているところである。
・振興局で保管しているだけでは意味がないので、少しでも知ってもらうために、来年度の事業でこれまでの事業についての報告書を作成し、その他に資料館と連携して展示していただけるようにしていきたい。

【右代氏】

・「忘れてはいけない、モノがたり展」の中でも約50点、資料を紹介していましたが、ただ物だけが残ってしまうと、何の物かわからない。北方四島にまつわる物がどういう形で使われて、北方四島の遺産としてふさわしいものなのかを示してあげなければ、語り継ぐための資料にならないと考えている。今後の方向性を示してほしい。
・写真集「千の島を巡る 1946年のクリル探検」は、非常に重要な資料なので今後どのように調査していくのか。ここだけの問題ではないが、ウラジオストクの文書館にどのようにアクセスして情報収集していくのか。そういうことをしなければならぬのかなと思っている。

【事務局】

・補足しますと、この事業で寄贈された物をどうするかというと、納沙布岬に新たに戦前の北方四島での暮らしをテーマにした根室市の資料館が出来て、そちらのコン

セプトが我々の事業のコンセプトと重なる部分が多々あります。現実的には振興局で物を預かっても展示するスペースがないという中で、根室市でそういう事業を展開されたということもあって、寄贈してくれた方の了解を得たうえで、資料館で常設展示をしていただくということが、現状では展示するのに一番ふさわしいと考えている。

【本間氏】

- ・「忘れてはいけない、モノがたり展」の中でプラカードみたいな物を見せてもらったが、これはどういうふうに使われていたかとか、例えば福澤さんの物であれば、脱出してすぐに必要なものは家ではないかということで、家を作るための道具とかを中心に持ってきたと話していましたが、モノが語る部分とそれに関わった人の肉声というのも含めて展示してはどうか。博物館などでボタンを押すと声が出てくるものがあるので、そういうものでもいいのかなと考えている。

【事務局】

- ・振興局で行った「忘れてはいけない、モノがたり展」では、資料を提供してくださった方に取材して、それにまつわる思い出、どういうふうに使われたのか、どう思っていたのかを含めてA4、1枚にそれぞれの作品について記録をとって解説文みたいな形で来場した方にお渡しした。
- ・根室市北方領土資料館で展示されている資料は、そこまで説明している資料はないので、根室市とも相談しながら出来ればと思います。

【小野氏】

- ・資料と物語を聞き取った情報があって、それを展示する方向でということだが、単なる報告書ではなくて、1冊の本みたいなものを作成してはどうか。実際、資料館で展示したとしても、中々足を運びにくい状況になっていくことを考えると、本にして皆さんに配っていった方がいいと思う。報告書みたいな形ではなく、物語を伝えるようなものを作って、北方領土遺産についても全部1冊にまとまるような内容がこの調査で出来てきているのではないかと思う。

【事務局】

- ・我々もそういう方向になればいいと考えている。

【右代氏】

- ・簡単なガイドブックも必要だけど、データベース的なものとして、一般の方がインターネットで見れるようなシステムが出来ればいい。

【事務局】

- ・予算等の問題がなければ、どこまでもできるが、少なくともどこに行けば何があるというのが、振興局の事業を通じて整理され、どこに居る誰が何を持っているかという情報を含めて整理するというのがこの事業の目的の1つでもある。
- ・それが形として本になったりすれば理想だが、現時点ではそこまでは言えない。利活用の仕方についても考えていきたいと思う。

【右代氏】

- ・北方領土遺産ツアーにまつわる史跡整備とか、石渡氏の方で何か考えられているのか。

【石渡氏】

- ・野付半島は現在沈んでいまして、史跡指定するにはリスクが高い。何年か前にも自然崩壊するおそれがあるということで、野付半島の半分を発掘しました。このツアーで巡っているのは、残っている半分を見てもらっているという形になっている。現状、史跡として指定して保存していけるかという点、問題があると考えている。遺跡として登録しておくという形にしかありません。もう既に自然崩壊しているところもある。それを今後どうしていくのかということ状況をしながら考えていきたいと思っているところである。

【右代氏】

- ・1番気になるのは墓石の問題。ここに墓石が集約されていたのか。

【石渡氏】

- ・昭和30年代か40年代に馬が墓石を蹴飛ばしたりしているのがこの3つの墓石です。周辺には集められたような墓石のようなものが散在しているような状況。

【右代氏】

- ・位置確認含めて、日本人の心情として、この墓石をどういうふう整備していくのか。一般に公開してしまうとこれが出てしまうので、その前に墓石を確認して整備していただきたい。この北方領土遺産事業を通じて後押ししていただければ。

【天方氏】

- ・平成27年度の段階で21項目選ばれていたと思うんですが、それについて28年度分の報告が見えてこないんですが、その辺はどうなっているのか。

【事務局】

- ・当初、北方領土遺産として位置づけて21項目を調査項目として掲げていましたが、そのうち着手したのがどのくらいで、どのくらいの進捗状況かということですね。今日は資料を用意していないが、昨年時点で10数件は着手している。成果として表に出せるほどの物が集まっていないということで、展示会が出来なかったり報告会が出来なかったりという状況の物が多数ある。実際、ものによっては資料が全く出てこないものが多い。海底ケーブルについても、いつ建てられた物かということさえ、あちこち資料を探しても出てこない。物によっては、情報が集まってくるものもあるが、そういうものは随時展示会を開いたり、勉強会を開いたりしている。
- ・進捗状況とすれば、半分ぐらいは発表できる成果として集まっている物は、正直なところ無い。

【天方氏】

- ・どこかの時点で、やれるもの、やれないものがはっきりしてくるのか。

【事務局】

- ・残り1年という限られた時間の中で、いくつ成果を出せるかということになれば、なかなか厳しいものがある。
- ・この事業が終わったらどうするかということですが、予算が付いた事業としては一旦区切りをつけるということになる。北方領土遺産という取組は通常の業務としてあってもいいものだと思っている。予算付けが出来なかったとしても、通常の業務の中で職員に協力してもらって続けていく。時間のかかる事業だという前提で言えば、3年で全てについて調べ、きっちりした資料を残せば1番良いが、何年か前だったらその人に聞けばわかったのに亡くなっていたりとか、資料を持っていたのに捨ててしまったとかという状況に直面するので、そういう状況を考えると21項目すべてについて、きっちりしたものが残せるかということと現状ではかなり厳しい。

(2) 今後の事業計画について

事務局から、平成29年度に実施予定の北方領土遺産ツアー、国後島に不時着したリンドバーグ夫妻と旧落石無線電信局に関する展示会、事業報告書の作成、北方領土遺産調査検討懇談会、事業報告会について説明。

【右代氏】

- ・来年度に次をどうするのか、方向が見えなければならぬと思う。北方領土遺産事業については、今後通常業務でやっていくという中で、どう見せていくのか。これを継続的に継承していくのが大切だと思う。通常業務の中で位置づけたものとしてやっていただきたい。
- ・北方領土遺産ツアーを根室市内で行うということですが、ハッタリ浜のケーブル庫を今後どうするのか、落石の無線局、根室市の北方領土資料館をどうするのか、根

室市と道が連携を図って、物語の展示構想を進めていくのかが、遺産ツアーを行ううえでは重要だと思う。

【事務局】

- ・補足させていただきますと、平成29年度に行う事業としてはお配りした資料に記載されてる北方領土遺産ツアー、リンドバーグ夫妻と旧落石無線電信局に関する展示会などしか無いのですが、21項目全てに着手している。

【本間氏】

- ・昨年も触れたが、岩下先生がやっているボーダーツーリズムと連携してやるとか、そういうようなことも考えていった方がいいのではないかな。

【事務局】

- ・ボーダーツーリズムについては、岩下先生が時折私のところにも寄ってくれて、事業についていろいろお話されて行くこともある。その時、振興局を絡ましてくれという発想があれば非常に我々も動きやすいんですけども、市や町ごとにきちんと下りているところもある。振興局が関わられる部分もあると思うので、今後先生とも連絡をとりながら、何が出来るかいろいろと考えてみたい。

【天方氏】

- ・今回の事業の中で、例えば巡回展等各市町で開いていただいて、本当に北方領土について、町としても考えるきっかけの機会をいただいているのかなと思います。この事業自体大変素晴らしいと思いますので、できれば単独の事業として、今後も継続的にやっていっていただいた方が、北方領土問題が注目を集めている時期でもありますし、1世の方がだんだん減っていった状況で、ますます周知が必要な時代になってくるのかなと思います。出来れば継続した事業を検討していただければという風に思っている。

(3)その他

【右代氏】

- ・折角、北方領土遺産ツアーというのが出てきて、来年度は石渡さんの別海町と根室市内でやるという方向が出ているところなのですが、ここにおられる学芸員の皆さん、村田さん（中標津町）だとか、どういった遺産ツアーが出来るとか、小野さん（標津町）のところでどんなツアー、天方さん（羅臼町）のところでどういったのが出来るのか、逆に考えて提案していただいて、こういう事業のフォローアップというか、もう少し厚みをつけていけるような地域活動ができるのかなと思う。折角、皆さんいらっしゃるので、そういう協力はできるのではないかなと思っている。

【小野氏】

- ・私が勤務している（ポー川史跡自然）公園にも、毎年、本州の方からツアーで来られる方がいるんですけども、そのツアーの中に北方領土遺産をうまく絡めるような形で、管内を巡って北方領土のことを学んでもらえるようにして、そういうのを積み重ねて仕組みができると非常にいいのかなと思っている。

【右代氏】

- ・企業がツアー化しているのか。

【小野氏】

- ・どこが主催なのかわからないんですけども、毎年2～3件来る。

【村田氏】

- ・折角、北方四島の歴史を資料精査して発信されているので、今度は札幌市とか内外にもそういうことを伝えるために展示会みたいなものを開けないのかなと思った。

【石渡氏】

- ・こういった事業を行っていただいたお陰で、4月に行っている野付通行屋のツアーもいつもの2倍以上の定員が集まりまして、北方領土の関係の遺跡について多くの人に知っていただいたかなと思っている。今後も継続して是非やっていただきたい。

【猪熊氏】

- ・先程来、収集した資料をどうするかという論点がありまして、讚岐主幹はじめ頻繁に（根室市歴史と自然の）資料館にきていただいて、資料収集に関わる情報交換をしたり、裏方の方の話をさせていただいている。資料収集はするのですが、整理はやはり長く続いて行くのかなと思っている。北方領土資料館として、教育委員会ではなく市長部局で設置しているもので、どうしても寄贈の受入規定だとか、収集の方針がまだ整理されていないような感じを受ける。おそらく、北方領土という冠を被せている以上、遺産の関係は今後とも市の方に集まることがあると思っている。その辺、庁内の中でも何とか話をして、資料についてどのようにやっていくのか、議論していかなければならないと感じた次第です。

【本間氏】

- ・この事業はおそらく振興局レベルというものではないと思う。それは報道される採用率みたいなものからすると、例えば全国版の全国放送、道内版、地方版、そういうので採用率からしたら、ずば抜けて高い。つまり、それだけのことをやっているということなので、先程天方さんがお話しされていましたが、これを格上げした事業にもっていかないともったいない。逆に言えば、これで予算がつかなかったら、他のものに何で予算がつくのかという風に言いたいくらいであります。だとすれば、再来年度に向けて道の単独予算にして事業を続けるとか、どうすればできるのかということも考えていかなければならないと思います。

【久保氏】

- ・先程、村田さんがおっしゃったように、道東区域以外の地域で今回集めた資料なんかを公開するのも非常に良い方法なのではないかと思う。例えば、札幌とか東京でどんどんそれをやっていく。私、実はお年寄りを相手にする仕事をしていまして、ここにも名前が出てますけど、富山さんという方が昨年亡くなりまして、本当にギリギリだったなと思った。富山さんは私に会うたびに一生懸命島の話をするんですけども、とにかくこの3年のうちに聞きとれて良かったなと思っている。これからは、もっともっと加速すると思うので、もっともっといろんな機関が絡んでいろんな話を聞いた方が良いのではないかと思います。これは振興局でやっている事業のほかにも他に聞き取る機関があってもいいと思う。そんな風に考えている。

【脇氏】

- ・最後に一言お話させていただきたい。この2年間の中で、特に振興局のスタッフの皆さんに本当にご苦勞をかけて、しかもこれだけの成果があがって、私からも評価したいと思っているところです。
- ・それに加えて、本間さんからお話があったように来年以降の問題として、格上げという問題がある。私も確かにそうだと思うと同時に、ニホロの問題も絡んでくると思います。根室市にもたくさん資料がある。或いは、振興局でも資料を発掘してストックしている、それから我々の団体、千島連盟の中にも若干ではありますけれども資料がある。資料がバラバラでそれぞれのところで持っている。
- ・それをニホロというこれだけの施設があるのだから、そこを利用した形で集約できないのか。結局こうやって資料があっても、振興局の所有のものだとか、市の所有のものだとか、千島連盟の所有のものだとか、それぞれ持っているんだけど、いずれ担当者も替わっていく中において、きちんとある程度集約したりすることが必要になってくるのではないか。書籍だとかはたくさんあるんだけど、やっぱり物ですから、将来わからなくなってしまうようなことが無いように、集約した方がいいのではないか。となれば、ニホロを今後どうやって活用したり、もう少しグレードアップするような形で出来ないものかと思う。大きな問題ですけども、北海道に対して方向性について聞いてみたいとそういう風に考えています。